

第23回校友会中国の旅 —桂林と少数民族—

栗原弘子

学好中国话，为日中友好起桥梁作用！

日中学院報

2019年 7

毎月1回1日発行 第532号

編集発行人・片寄浩紀

定価1部100円/1年1000円(送共)
郵便振替 東京 00100-38184

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3
TEL 03-3814-3591 FAX 03-3814-3590

URL <https://www.rizhong.org/>
E-mail info@rizhong.org



2019.5.21~22
本科日本語科合同合宿

A 先生の新語コーナー



duòshǒudǎng
“剁手党”

“剁手党”：ネットショッピングに夢中になつている人た
を指す。ネット通販依存症。“剁手族”とも呼ばれ、女性が
多い。剁は包丁などで叩き切ること。毎日、複数のシヨッピ
ングサイトをのぞき、興味津々に商品や価格を細かくチェッ
クし、購入している。しかし、こうした人たちは必要のないも
のまで買ってしまふことが多く、時間とお金の浪費を招いて
いる。ふと我に返り、「手を切り落としたい」ほど後悔すること
もあるが、すぐに忘れて再び買ひ物に熱中するといふ。(A)

金团长率いる日中学院校友会の中国旅行は今年で3回目を迎える。今
回の目的は、漓江を船で下り、桂林の水墨画さながらの風景を味わうこ
とと少数民族トン族の人々との交流である。

第1日目(3月26日 火曜日)

初日は移動日。羽田から広州・白雲飛行場へ。昨年降り立った南京空
港が巨大過ぎたためか、以前は大きいと思った白雲空港がさほどには感
じられない。入国手続きのための指紋認証機はうまく作動せず、結局い
つも通りの手続きで無事入国完了。桂林に向かうため、まず専用バスで、
広州南駅に。此处から高速鉄道で桂林に行く。汽車旅も今回の魅力の一
つだ。桂林には夜着いた。1日が高い。ホテル内にあるレストランで夕
食を頂く。移動が無いことの安堵感に加え、料理の美味なこと。全部で
17皿。特に冬虫夏草入りのスープは疲れた体には最適であった。

第2日目(3月27日 水曜日)

『桂林漓江大瀑布飯店』に連泊する。大瀑布という名前だが、滝はい
ったい何処にあるのかしら。天気は小雨で少し肌寒い。竹江から乗船し陽
朔までの4時間の旅だ。船はゆったり進み、小雨に煙る川の行く手には、
カルスト地形独特の山々が連なり、水墨画で見たとおりの桂林の風景が
あった。甲板上でも風は穏やかで船内アナウンスで説明を聞く一方で、
要所要所をガイドの莫さんが日本語で解説してくれた。

莫さんは漢族で江西省で
二日間お世話になる人だ。
ガイドの仕事をする傍ら、
調理師免許を持ち、コック
としても働いているという。
どうやら日本人観光客の激
減が原因らしい。



カルスト地形の珍しい
峰々が両脇に流れていく。
特に「九馬画面」と言われ
る山は9頭の馬が見えるというので、目を凝らしてしっかり数えたが、
結局5頭しか見つからなかった。20元札の裏面に印刷されている場所と
言われている所も通過した。この絵はどうも船からではなく、別の角度
から撮ったようだ。

船内で昼食を頂き、水墨画の世界を存分
に鑑賞し、陽朔に上陸する。船着き場には
物売りがいて賑やかだ。

別名『洋人街』とも言われる西街は中国
語のテキストにも出てきた場所で、山と山
の間にできた小さな町だ。

西洋人が多いことで知られていたの
で、さぞや洋風なのだろうと密かに楽しみに
していたが、それは有名になる以前の事ら
しく、今は地元の人々の営む民芸品店や雑



貨、食品等の土産物店が軒を連ねていた。店を覗きながら、小雨の中、西街を逍遙する。45分のフリータイムだ。午後は専用バスで桂林に戻る。途中「高田郷」と呼ばれる田園風景の広がる地帯に行く。TV番組の「世界の街道に行く」を地で行く気分になる。田園地帯のあちこちにあの独特な形をした山がある。桂林＝水墨画＝水辺の風景という固定観念に捕らわれていた自分が恥ずかしくなった。

桂林の街には夕刻に入った。ちょうど退社時間で、電気自転車の洪水だ。時速40キロも出るという。自転車なのだから免許はいらない。だが、日本人の目には、どうしても電動バイクとしか映らない。雨脚が強く霧が濃くなったので、オプションのナイトクルーズは中止になったが、ホテルの滝のショーは見る事ができた。これは私達が宿泊しているホテルの壁を大量の水が音楽に乗って流れる仕掛けで、10分間ひたすら水が流れ落ちる。「ああ、だから・・・」ホテル名に納得した瞬間であった。

第3日目(3月28日 木曜日)

愈々トン族の村に行く日だ。その前に、訾洲(ZIZHOU/シシュウ)公園で象が漓江に鼻を入れて水を飲んでいるように見えるという象鼻山を遠望する。時々濃霧が発生するので、中々象の姿を認識できない。じっと目を凝らす。L同学が、心眼で見るとおっしゃったのが印象的であった。次に穿山鍾乳洞を見学。思った以上に足元が良く、内部も広い所が多い上に、鍾乳石がライトアップされているので安心して眺めていられる。特に石灰岩が棚田のようになって天井に映っている光景には暫し釘付けになった。

昼食をとり、貴州省へ向かうために桂林西駅に行く。高速鉄道に乗るのだ。胸が高鳴る。実は今まで、「汽車に乗ろうよ。」と言ってきたが、その度に、荷物を持っての移動が大変、乗車時間が短いから乗り遅れる可能性もある等で、「校友会の旅行に鉄道移動はご法度か・・・」と思っていた為、今回の実現は本当に嬉しい。50分後従江の駅に着く。駅前広場にはトン族の人たちが、『熱烈歓迎日中学校校友会一行』の横断幕を持って待ち受け、歌を歌って出迎えてくれた。今までこのような歓迎を受けたことがなかったので、嬉しいような照れくさいような何とも言えない気持ちだ。駅の前方には不思議な建築群があった。トーテム

ポールを思わせるオブジェは、宇宙人が作ったのではないかと思うほど斬新なデザインだった。

専用バスに乗り、この地方で最大と言われるトン族の村「肇興(チョウコウ・ZHAOXING)侗寨」に入る。村全体が日本風に言えば、歴史保存地区、或いはテーマパークのようだ。入り口でパスポートを提示し入村料を支払う。更に車で5分。眼前に現れた肇興の村は、夕陽を浴びて世俗から切り離された桃源郷のようだった。

ガイドの彭さんの案内で、村にある鼓楼を中心に主だった場所を見学する。鼓楼は本来、村に一つだそうだが、此処にはそれぞれ仁、義、礼、智、信と名付けられ5つもあった。

樓の層の数によってその地区の豊かさがわかるそうだ。村に入って以来ずっと、カーン、カーンという何かを打ち付けているような音が響いていた。それは木槌の音で、藍染の布に、豚の血と植物の汁を混ぜたものを塗り、木槌で何度も繰り返して叩き、光沢のある布を作っていたのだ。民族衣装に使われるこの布は、「亮布」というのだそうだ。



ホテルは外廊下があり、窓は半部^{はじとみ}。室内はコンパクトに出来ていて、使い勝手がよく、Wi-Fiも入っていた。できて間もないらしく微かに木の香りがした。トン族の村は全て木造である。釘一本使わずに作った橋もあると言う。高い建築技術を持った民族なのである。

部屋を一步出れば、山あいの地に立つトン族の家々が目に入る。夕餉の煙が立ち上り、穏やかに静かな時間が流れていく。

夕食にトン族料理を頂く。品数が豊富で、どれもとても美味しい。名物の熟れ寿司は日本の鮎寿司よりずっと食べ易かったが、我々を気遣ってか、高価なのか、多くはなかった。食後の民族ショーは自由参加。

(次号へ続く)

新着DVD ご案内

今月は中国から世界に向けたお勧めの人気作品をご紹介します。それらは日本語・中国語を含め、**10か国語の字幕が選択でき**、日本では上映されない楽しい娯楽作品ばかりなので、ぜひお楽しみください。

『一句頂一萬句』

監督：劉雨霖 主演：毛孩、李倩、劉蓓、范偉



恋人たちは結婚するとなぜ話をしなくなるのだろうか。親になると何故子供と話ができなくなるのだろうか。「話がしたい」—そんな当たり前の願いさえ満たされぬ人生に苦悩する。

人は心の安らぎを求め、自分と話が合う相手を一生涯探し続けるのか…。そんな孤独との闘いに終止符が打たれる人生最高の言葉、一万句に値する一句とは…。

【解説】 本作品は中国で権威ある茅盾文学賞を受賞した小説『一句頂一萬句』（左写真）の一章節を改編したものです。



原作者は一昨年本学院に訪され、交流会が開催された中国作家代表団団長の劉震雲さん。その大きな温かいお人柄で学院内にも多くのファンが生まれました。

また劉震雲さんといえば、ヒットメーカー馮小刚監督との名コンビで『**手机**』『**一九四二**』『**我不是潘金蓮**』（いずれも図書室所蔵）など、多くの作品を生んできましたが、今回は愛娘である劉雨霖さんがメガホンを取り、劉震雲さん御自身もいけ好かない見合い相手役で出演しているのがなんとユニークです。人生の哲学のような感慨深い映画です。

『冰河追凶』 監督：徐偉 主演：梁家輝、佟大为



美しい湖村の氷河に沈められた身元不明の死体の胃部から特殊な水銀化合物が検出される。事件を追う刑事達は廃墟となった精錬工場跡地から不審な排水口を発見し、環境汚染との関連を探っていく。

『我的特工爷爷』

監督：洪金寶 主演：洪金寶、陳沛妍、劉德華



丁爺さんはかつて優秀な精鋭部隊の隊員であったが、退職後、孫娘を自分の不注意から亡くしてしまいアルツハイマーを発症。自分の話し相手になってくれる近所の少女に孫娘同様の愛情を注ぐが、少女がマフィアに誘拐され命が狙われたことにより精鋭魂がよみがえる。

そのほか、多数のDVDが入荷しています。

一新着図書

- ・『**單車失竊記**』 吳明益 麥田出版社
- ・『**自轉車泥棒**』 吳明益 天野健太郎訳 文藝春秋



「あの自転車は、どこにいったのか……。父の失踪とともに消えた自転車。その行方を追うち、いつしか台湾から戦時下の東南アジアのジャングルへ。壮大なスケールで描かれる傑作長篇」一本書帯より。

本書は2018年にイギリスで最も権威ある国際ブッカー賞にノミネートされた小説です。台湾の日本統治時代を含むアジアの歴史やエピソードが関わってストーリーが展開されているので、日本の読者としても興味深く読み応えある小説となっています。

その他の新着図書（著者・出版社省略）

- ・『〔音声DL付〕中国語似ている単語使い分けブック』
- ・『中検3級 筆記問題徹底対策1000問—発音・文法・日文中訳—』
- ・『中検4級 筆記問題徹底対策1000問—発音・文法・日文中訳—』
- ・『中検準1級・1級問題集 2019年版』
- ・『中検2級問題集 2019年版』
- ・『中検3級問題集 2019年版』
- ・『中検4級問題集 2019年版』
- ・『中検準4級問題集 2019年版』
- ・『大連・旅順歴史ガイドマップ』
- ・『日本で生まれた中国国歌—「義勇軍行進曲」の時代』ほか、図書室掲示板にてご案内しています。

7月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
	1 ●別科 274 期授業開始	2 ●本科 1 年 朗読大会	3	4	5	6
7 ●日本語能力試験	8 ●日本語科 定期試験 (~ 12 日)	9	10	11	12	13 ●日本語科 ホームステイ (~ 15 日)
14	15 ●休日	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25 ●本科 定期試験 (~ 31 日)	26 ●日本語科 個人面接	27
28	29 ●本科 2 年 短期研修帰国	30	31 ●本科、日本語科 1 学期授業最終日			
<p>●8月の日中学院 ・1日…本科 夏休み (~31日) 日本語科 夏休み (~25日)</p> <p>・6日…別科 夏期集中講座(~10日) 別科 夏休み (~18日) ・12日…夏休み 閉門(~18日)</p> <p>・19日…別科 授業再開 ・26日…日本語科 授業再開、避難訓練 ・31日…本科生のための公開講座</p>						

夏期集中講座 8月6日(火)開講



今年は、例年の開講されている講座に加え、1年後に迫った東京オリンピックに向け、日中学院でも「オリンピックについて話そう」と「おてなし会話」という二つの講座も開講します。さらには文化的な講座等、全12講座を開講します！詳しくは、HPもしくはチラシをご覧ください。

○本科説明会を兼ねた中国語無料公開講座

8月31日(土)9:30 ~ 13:00頃

全日制で中国語の学習を検討されている方向けの体験講座です。実際の授業を体験することはもちろんのこと、実際に学習している学生からの体験談などを聞くことも出来ます。ご希望の方は、お電話もしくはHPからお申し込みください。



学院長の思い出話11

忘れ難い一年

周恩来総理死去（1月8日）で始まった1976年は、朱徳総司令死去と唐山大地震発生（7月）。毛沢東主席死去（9月9日）、四人組逮捕と文化大革命終了（10月）などが相次いで発生し、中国にとって「不平凡の一年」でしたが、私自身にとっても「忘れ難い一年」となりました。

9月に北京で協会が実施する予定の日本環境保護展覧会の展示物を載せた船が横浜港を出港した7月28日に唐山大地震が発生したのです。到着港の天津新港は使用不能、北京でも余震が続いたため、展覧会は10月に延期されました。

9月半ば、先遣隊として北京に行った私は人民大会堂に安置されていた毛首席の遺容を礼拝し、天安門広場で催された100万人追悼大会も目にしました。展覧会閉幕直後に四人組逮捕が公表され、同じ天安門広場で今度は「四人組打倒慶祝大会」が開かれ、私たちも招待され、天安門楼上で手を振る華国鋒主席の姿を見ました。「歴史の大転換時に北京にいた」という感慨は今でも薄れません。

(片寄浩紀)